

<b>科目名・単位数</b>	<b>環境造形</b>	<b>( 4 )単位</b>	<b>学習レベル</b>	<b>標準</b>
----------------	-------------	----------------	--------------	-----------

<b>学習目標</b> ① 自然や生活環境と造形との調和について理解を深め、造形の能力を総合的に生かす実践的な能力と態度を育てる。				
--	--	--	--	--

学期	学習内容	学習のねらい	提出物
前期 (4月～9月)	1 オリエンテーション ・ 環境造形とは？  2 金属で作る(青銅・シルバー)  ・土で雌型の作成 ・雌型の乾燥と焼成  ・錫と銅のカットと計量 ・溶解 ・鑄造 ・研磨  ・プレゼンテーション  3 木で作る(流木を利用して) ・海で流木を回収する ・量感を感じながら作業を進める ・木の性質を知る ・木取り ・あたり ・面取り ・削りだし ・磨き 仕上げ(オイル・ワックス) ・プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間計画と基本的な心構え</li> <li>・ 人類が最初に発見した合金青銅を学ぶ</li> <li>・ 金属再生の意味                              ※高温の金属を扱うため、安全面には特に注意が必要</li> <li>・ 関連: 陶芸・バーナーワーク</li> <li>・     ロウ付け・溶接</li> <li>・     彫金・鍛金</li> <li>・     ロストワックス</li> <li>・ 講評会を通して互いの作品の良さを的確に表現出来るようにさせる。</li> <li>・ 流木を利用し木彫の基礎を学ぶ</li> <li>・ 流木の自然な形を利用した造形を考える</li> <li>・ 削りの方法</li> <li>・ 接着の方法</li> <li>・ 研磨の方法</li> <li>・ 関連: 環境造形・石彫・彫塑                              ウッドクラフト</li> </ul>	1 金属作品 アイディア スケッチ  2 金属レポート  3 金属作品  4 アイディア スケッチ  5 レポート  6 流木作品
後期 (10月～3月)	3 土で作る(シーサー) ・デッサンを元に沖縄の赤土を用いて造形 ・土の性質を知る ・乾燥を考慮に入れながら大きなパーツから制作 ・頭部・胴体・手・足・尾 の各パーツの制作 ・各パーツの接着 ・細部の仕上げ ・乾燥 ・焼成(素焼き800℃) ・プレゼンテーション  共同制作 ・テーマ設定 ・表現方法の選択 ・資料収集 ・制作のプランニング ・材料の選定と準備 ・制作 ・プレゼンテーション  ・鑑賞会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ひねりによる成形の基礎を学ぶ</li> <li>・ かたまり作りによる成形の基礎を習得する。</li> <li>・ のぼし→締め</li> <li>・ 紐作りによる成形の基礎を習得する</li> <li>・ 接着→のぼし→締め</li> <li>・ 窯詰めから焼成までの基礎を理解し、安全面に注意しながら作業を行えるようにする。</li> <li>・ 最後の課題として共同で学校の環境を取り込んだ記念碑的な作品を制作する</li> <li>・ 関連: 全ての領域と関連させ総合的な質を高める</li> <li>・ 関連分野の資料収集援助</li> <li>・ 制作ノートで個々の進行状況を把握</li> </ul>	7 シーサー アイディア スケッチ 8 土レポート  9 シーサー  10 共同制作 制作 企画書  11 共同制作 作品

<b>評価の観点と方法</b>				
① 関心・意欲・態度	基礎技術習得のためのねばり強さと、失敗の原因を追及し何度でもやり直す態度を評価する。			
② 発想や構想の能力	アイディアスケッチや作品の制作過程において発想や構想の能力を評価する。			
③ 創造的な表現の技能	提出された作品から基礎技術の習得度および表現の技能を評価する。			
④ 鑑賞の能力	合評会、展示会、プレゼンテーション等を通して互いの作品の良さを的確に表現できるか評価する。			

使用教科書・副読本	無し	実習費	2,000 円
-----------	----	-----	---------

教材・道具等 作業着, 他
------------------